

学会の歴史・沿革

1978. 4. 6

国立精神衛生研究所の加藤正明所長のもとに数名の精神療法家が集まり、集団精神療学会設立についての話し合いを行う。そこで、学会にするにはもっと時間が必要なことや、心理の人たちへの呼びかけが必要なこと等の問題点が出され、その結果、しばらくは小人数のコアグループで会を重ね、徐々に広げていくことにしようということになった。

1978. 5. 15

“キックオフ” ワークショップ『統合精神療法の理論と実際』

カナダとチェコで、ノイローゼに対する合宿、デイケア方式の集団精神療法（統合精神療法）を行っている F. Knobloch 氏を囲んでのワークショップであった。この企画は、学会設立へ向けての“キックオフ” ともいうべきワークショップとなった。

1978. 10. 3

オープニングシンポジウム『病院の中での集団精神療法』

仙波恒夫氏、鈴木純一氏、山口隆氏の各氏が話題を提供するという形で行われた。当日のPRはほとんど行われていなかったが、日大の講堂いっぱい人が参加したという伝説のあるシンポジウムであった。

「病院治療について（映画をまじえて）」仙波 恒雄（千葉病院）

「病院内大グループ」鈴木 純一（海上寮療養所）

「病院内小グループについて」山口 隆（日大、青木病院）

1979. 2

集団精神療法家の交流、研究、そして普及の為の講習会をもつことを目的として年2回のセミナーの研究会と、年1回のシンポジウムを開くことが決まった。この会の名称は、『集団精神療法研究会』とした。

1979. 9

集団精神療法研究会ニュースが創刊

* のちに日本集団精神療学会ニュースに発展する。

* 集団精神療法における臨床心理の人達の役割の重要さが討議されていた。

1979. 6. 2

第1回ワークショップ『精神病院における小グループの治療経験』渡辺 登（日大、青木病院）

1979. 9. 22

第2回ワークショップ『心理スタッフによる院内集団療法の実践報告』大田 民雄（三枚橋病院）

1980. 1. 26

第1回シンポジウム

『入院グループにおけるグループプロセス』吉松 和哉（東大精神衛生）

『デイケアグループにおけるグループプロセス』太田 敏夫（東大精神神経科）

『外来グループにおけるグループプロセス』溝口 るり子（青木病院）

1980. 6. 14

第3回ワークショップ

『分裂病への心理劇の試みー“役割拒否”から“役割実現”へその発達プロセスー』

成沢 博子（針生ヶ丘病院）

1980. 9. 13

第4回ワークショップ『治療共同体におけるグループ活動』鈴木 純一（海上寮療養所）

1981. 1. 31

第2回シンポジウム

『精神分裂病に対する集団精神療法の概観』近藤 喬一（町田市民病院）

『精神科救急病棟における病棟大グループの治療的役割について』窪田 彰（都立墨東病院）

1981. 6. 20

第5回ワークショップ『サイバーネーション療法』石川 中・野田 雄三（東大分院心療内科）

1981. 9. 19

第6回ワークショップ『総合病院における集団精神療法の経験』畑下 一男（関東労災病院）

1981. 11. 17~11. 19

第1回モレノ女史心理劇講習会

Zerka Moreno 女史のサイコドラマセミナーを行った。1日約100名近くの人々が参加し感銘を残した会となった。彼女の来日は、日本のサイコドラマ家への大きな刺激となり、又、集団精神療法研究会への支えにもなった。

1982. 1. 30

第3回シンポジウム

『交流分析の立場から』国谷 誠郎（日本交通公社）

『森田療法の立場から』丸山 晋（国立精神衛生研究所）

1982. 6. 26

第7回ワークショップ

『進行性筋ジストロフィー症患者の末期ケアー末期以前からのグループワークによるケアー』

石川 中・野田 雄三（東大分院心療内科）

1982. 10. 23

第8回ワークショップ『ソーシャルワークにおける集団活動の現状と課題』

窪田 暁子（日本福祉大学社会福祉学部）

1983. 2. 19

第4回シンポジウム集団精神療法講習会

- ①『精神病院での集団療法』鈴木 純一（海上寮療養所）
- ②『入院と外来の小集団精神療法』山口 隆（日大精神神経科）
- ③『地域でのグループワーク』増野 肇（栃木県精神衛生センター）

1983. 2. 19

第4回シンポジウム『どうしてグループなのか』

- 坂口 信貴（北九州デイケアセンター）
- 大田 民雄（三枚橋病院）
- 藤沢 万紀代（県立高茶屋病院）

1983. 5. 21

第9回ワークショップ『人の出入りによる小集団の患者の態度変化について』

- 原田 忍（滝川中央病院）

1983. 9. 22～9. 25

第2回モレノ女史心理劇講習会 監督：Zerka Moreno

1983. 1. 27～1. 28

2日間にわたり第1回集団精神療法学会（会議）が開かれた。

かくして、6年間にわたる準備活動ののち、ここに集団精神療法研究会は発展的に解消し、その後、日本集団精神療法学会が発足することになる。更に、1983. 2、日本集団精神療法学会は、国際学会（IAGP）によりその支部として正式に承認されることになった。（その後、今日では多少事情が異なっている。）

1983. 4. 27

日本集団精神療法学会の役員会が発足し、会則をどうするか？会員を厳しく制限するか？広く集団療法と呼ばれるもの、グループワークのようなものを取り入れるか？等が討議され、結果、あまり厳格にせず、グループワーク的なものも含めて行こうということに決定した。そして、翌年、記念すべき第1回日本集団精神療法学会大会が開催されることになるのである。

第1回 東京大会 1984. 1. 28 ～ 1. 29

- 『集団精神療法の治療的意義』
- 大会委員長 加藤 正明（東京医科大学）

第2回 東京大会 1985. 1. 26 ～ 1. 27

- 『集団精神療法の今日の課題と展望』
- 大会委員長 鈴木 純一（海上寮療養所）

第3回 東京大会 1986. 1. 25 ～ 1. 26

- 『日本における治療共同体』
- 大会委員長 吉松 和哉（東京都精神医学研究所）

第4回 東京大会 1987. 1. 24 ～ 1. 25

- 『日本における集団と個の問題』

大会委員長 近藤 喬一（町田市民病院精神科）

第5回 東京大会 1988.2.6 ~ 2.7
『環太平洋会議の成果 日本の集団精神療法の今後』
大会長 増野 肇（宇都宮大学教育学部）

第6回 北九州大会 1989.2.4 ~ 2.5
『病理と技法の違い 治療構造とチーム医療』
大会長 坂口 信貴（北九州市立デイケアセンター）

第7回 東京大会 1990.1.27 ~ 1.28
『集団精神療法としての生活技能訓練 集団精神療法はなぜ有効なのか』
大会長 宮内 勝（東京大学医学部精神医学教室）

第8回 愛知大会 1991.2.2 ~ 2.3
『個人精神療法と集団精神療法』
大会長 伊藤 克彦（愛知県総合保健センター）

第9回 東京大会 1992.2.4 ~ 2.5
『個人力動と集団力動の関係』
大会長 小谷 英文（国際基督教大学）

第10回 秋田大会 1993.3.20 ~ 3.21
『日常治療実践としての集団精神療法』
大会長 稲村 茂（笠松病院）
副大会長 杉山 和（杉山病院）

第11回 埼玉大会 1994.1.21 ~ 1.22
『集団を対象とする治療・援助の計画と効用』
大会長 木戸 幸聖（埼玉県立精神保健総合センター）
副大会長 西川 祐一（西川病院）
野中 猛（埼玉県立精神保健総合センター）

第12回 北海道大会 1995.6.23 ~ 6.24
『集団精神療法との出会い』
大会長 伊藤 哲寛（北海道立緑ヶ丘病院）
副大会長 遠藤 雅之（北海道立精神保健センター）

第13回 東京大会 1996.3.29 ~ 3.30
『危機と集団精神療法』
大会長 増野 肇（日本女子大学）

第14回 長野大会 1997.3.28 ~ 3.29
『集団精神療法の効き目と落とし穴』
大会長 吉松 和哉（信州大学）

- 第15回 東京・府中大会 1998.3.20 ~ 3.21 …
『集団精神療法の実践を巡る諸問題 教育・研修・学会のあり方を中心に』
大会長 鈴木 純一（川越同仁会病院）
- 第16回 京都大会 1999.3.19 ~ 3.20 ……………
『場・集団と私 関わりと連携—治療の充実を』
大会長 田原 明夫（京都大学医療技術短期大学部）
- 第17回 東京大会 2000.3.17 ~ 3.18 ……………
『グループで語ることの意味』
大会長 武井 麻子（日本赤十字看護大学）
- 第18回 福岡大会 2001.3.2 ~ 3.3. ……………
『私と集団との関わり』
大会長 坂口 信貴（北九州市総合保健福祉センター）
- 第19回 東京大会 2002.3.16 ~ 3.17 ……………
『地域精神保健活動における集団精神療法』
大会長 窪田 彰（クボタクリニック）
- 第20回 秋田大会 2003.4.12 ~ 4.13 ……………
『人と人をつなぐ集団精神療法』
大会長 稲村 茂（笠松病院）
- 第21回 静岡大会 2004.3.27 ~ 3.28 ……………
『種をまき芽吹く集団精神療法 グループアプローチを考える』
大会長 磯田 雄一郎（静岡大学大学院）
- 第22回 札幌大会 2005.6.18 ~ 6.20 ……………
『集団精神療法的ということ 実践の拡がりから本質を求めて』
大会長 田辺 等（北海道立精神保健福祉センター）
- 第23回 東京大会 2006.3.24 ~ 3.25 ……………
『集団精神療法の実践・理論・そして教育』
大会長 北西 憲二（日本女子大学）
- 第24回 広島大会 2007.5.11 ~ 5.12 ……………
『様々な集団におけるグループダイナミックス』
大会長 衣笠 隆幸（広島市精神保健福祉センター）
- 第25回 関東大会 2008.3.22 ~ 3.23 ……………
『グループ、人を育むもの』
大会長 相田 信男（特別・特定医療法人 群馬会 群馬病院）
副大会長 高林 健示（東京集団精神療法研究所）

第26回 福岡大会 2009.3.21 ~ 3.22

『グループ・アプローチの多様性と可能性』

大会長 野島 一彦 (九州大学)

第27回 仙台大会 2010.3.13 ~ 3.14

『集団・個人—いま、そこに流れるもの—』

大会長 宇田川 一夫 (東北福祉大学)

第28回 京都大会 2011.3.12 ~ 3.13

『私の・外のグループ、内のグループ』

大会長 藤 信子 (立命館大学)

第29回 東京大会 2012.3.10 ~ 3.11

『グループサイコセラピストとは何者か』

大会長 高良 聖 (明治大学)

第30回 長野大会 2013.3.16 ~ 3.17

『コミュニティと集団精神療法』

大会長 樋掛 忠彦 (長野県立こころの医療センター駒ヶ根)

第31回 東京大会 2014.3.22 ~ 3.23

『いれものとしてのグループ』

大会長 高林 健示 (クボタ心理福祉研究所 東京集団精神療法研究所)

《参考》阿久澤克章・宮崎克也 (2008) : 日本集団精神療法学会誕生までの経緯と歴史.
集団精神療法学会誌, 24 (2), 204-207.